

ふくおかAL通信

～県立学校の教室から～

第27号
(R1.10.2)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

福岡県立久留米高等学校 高

志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成

明治41年に設立され、本年度創立111周年を迎える歴史と伝統のある、普通科・英語科を有する高等学校です。「誠実・叡智・気魄」の校訓の下、「『生きる力』の育成」、「国際理解の推進」、「伝統を守りつつも急速な社会への変化の対応」を将来ビジョンに掲げ、文武両道の高校生活を通じて生徒の知性を育て、豊かな情操を養い、心身を鍛え、自律的な態度や規範意識の涵養を図る教育活動を行っています。

1 目指す生徒像 未来を拓く、心豊かでたくましい生徒

- (1) 自他を思いやり、前向きに・誠実に生きる生徒(誠実)
- (2) 物事の本質を見通す知性・教養を身に付けた生徒(叡智)
- (3) 正しい判断力と強い意志を持った心身ともにたくましい生徒(気魄)

2 授業改善の推進体制と環境整備

(1) 研修部の取組

生徒への授業アンケートによって、教員が自身の授業を振り返る機会を年間2回設けています。教員の説明や授業内容についての評価だけでなく、生徒自身も授業への取組について振り返るアンケートにしています。平成30年度第1学期は、授業担当者が授業アンケートを分析し自己評価をまとめることで、アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善の必要性を認識し、その後の授業に活かしました。授業アンケートの数値に基づき、教科毎に授業改善についての検討を行うことで、教員の意識改革が進みました。

(2) 環境整備

昨年、創立110周年を迎え、同窓会からプロジェクター、スクリーンを全教室に、またタブレット20台が寄贈されたことで、ICT環境が一気に整い、積極的にICTを活用した授業が見られるようになりました(写真1)。

3 総合的な学習(探究)の時間(NEWセサミプラン)について

(1) セサミプランのスタート(平成8年度)とNEWセサミプラン(平成12年度)

生徒の学校生活で積極性が不足していることや、進路実現に向けて生徒が受け身となっている体制から脱却するため、平成8年度から、「セサミプラン」がスタートしました。生徒たちに自己探究や社会に対する視点を深めさせるために、1・2年生を対象に、自分たちの設定したテーマで調査を行い、レポートや小論文にまとめる活動を実施しました。その結果、自分の希望をしっかりとって志望校を決定する生徒が増加していきました。平成14年度からは、教科の基礎学力を養成することを目指し、第1学年「ディベート」、第2学年「課題研究」、第3学年「進路志望別小論文講座」を系統的に行う「NEWセサミプラン」として、正規の教育課程に位置付けました。以来、自分自身を見つめ、進路や生き方について考える機会を増やし、自分で考え行動できる主体的な生徒を育成することを目指してきました。

(2) セサミプランが目指すもの

1年生のディベートを中心とした研究で、柔軟で論理的な思考力、豊かな表現力を身に付け、自分の生き方や進路について考えを深めます。2年生の課題研究を中心とした研究で、課題発見能力、課題解決能力、情報収集能力、情報活用能力、プレゼンテーション能力を身に付け、自分の個性を発見し、進路についての認識を深めます。3年生の希望進路に応じた講座で、進路について真剣に考え、主体的な学び方や複眼的な物の見方ができるようになり、21世紀をたくましく生き抜いていく資質・能力の基盤を養います。



写真1 「家庭基礎」の授業

(3) 実際の学習活動(平成30年度の活動内容)

第1学年では、「日本は選挙の棄権に罰則を設けるべきである。是か非か。」というテーマを設定し、ディベートを行いました。

12月11日には、クラスの代表チームによる「クラス対抗ディベート大会」を開催し、白熱した議論が行われました(写真2)。第2学年は、希望進路に応じて「外国人労働者」「医療と食」「情報と教育」「心理」「地方再生」「住居」など様々なテーマで課題研究を行い、

「NEWセサミプラン課題研究発表会」で成果を発表しました(写真3)。

英語科は、「KIMONOプロジェクト～東京オリンピック2020～」(日本の伝統文化をアピールし各国の方達をもてなすため、企業等からの寄付や協力で着物を製作)でマレーシアの着物のデザインを担当し取り組むとともに、留学生交流会の内容の充実も図りました(写真4)。第3学年は、1学期にテーマ別小論文講座を設けて、学びに必要な知識・技能を身に付けた後、2学期以降は、各自の進路に応じた進路志望別小論文講座から、専門的知識を補い、思考力・表現力の向上を図りました(写真5)。(講座編成：法学、経済学、国際関係・人文・言語、教育・心理・スポーツ、環境・食物栄養、医療看護・福祉、理数)

(4) 評価

評価は、セサミプランの3つのねらいに基づき、①主体性、社会性(自己の在り方生き方を考える)、②課題発見能力、課題解決能力、情報収集能力、情報活用能力(学び方を学ぶ)、③文章表現能力、人の話を傾聴し、理解する力、自己の考えを表現し伝える力(コミュニケーション能力を身に付ける)の評価の観点を設定し、質問紙、面接、発表観察、作品分析、記録分析、行動分析などで評価しています。生徒は、1学年のディベート大会時の相互評価をはじめ、振り返りシート(1・3学年)や自己評価表(2学年)による評価及び、ポートフォリオ評価等を行っています。

(5) 効果

第1学年のディベートでは、柔軟で論理的な思考力、豊かな表現力を身に付け、自分の生き方や進路について考えを深めさせています。第2学年の課題研究では、課題発見能力、課題解決能力、情報収集・活用能力、プレゼンテーション能力を身に付けさせるとともに、個性の発見や進路への認識を深め、第3学年の進路志望別講座で、希望進路を真剣に考えさせるとともに、主体的な学び方や複眼的な物の見方ができるようになっています。これらの活動を通して、コミュニケーション能力の向上や生徒会活動の活性化にもつながっています。

4 成果と課題

(1) 成果

生徒は、PDCAのサイクルで物事に取り組む習慣や、積極的に意見を述べる力が身に付き、特にこの5年間で、様々な教育活動に主体的に取り組むことができるようになりました。一方、教員は、生徒が講義形式の中でもアクティブに考える授業と実際にアクティブに活動する授業を組み合わせる工夫をしたり、学校行事等においても、教員から生徒に指示をして動かす形態から、生徒に考え行動させる指導を行うようになっていたり、変化が見られるようになりました。

(2) 課題

ア 全体での課題の共有

授業改善に向けて、授業アンケートの分析等は教科においては実施していますが、分析結果を全体で共有するまでに至っていないため、今後は、実践に生かすために、全教職員で協議することでPDCAのActionの充実に取り組むと考えています。

イ 評価の充実

新学習指導要領に向けて、観点別評価の更なる充実に向けて研究を進めていきます。



写真2 第1学年ディベート大会



写真3 第2学年課題研究発表会



写真4 第2学年英語科KIMONOプロジェクト



写真5 第3学年小論文講座